

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層

(7) 箱根東京テフラ火口近傍堆積物 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 16

標本名 箱根東京テフラ火口近傍堆積物 露頭剥ぎ取り
標本

大きさ 幅 0.7 m, 高さ 1.7 m

重量 15.9 kg (板付き)

形状・展示・収納状況 板に固定した状態で大型移動
棚に収蔵

採集地 神奈川県足柄下郡箱根町芦之湯

緯度・経度 N35°13'12", E139°02'40"

標高 842 m

露頭の種別と現状 河岸の自然露頭、現存

露頭面の向き、傾斜 N60°W、80°S

堆積物の種別 降下テフラ、火砕流堆積物 (陸成層)

年代 660 ± 5.5 ka (箱根東京テフラ, 青木ほか, 2008)

採集作業者 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 笠間友博

採集日 2011 年 11 月 8 日

関連文献等

青木かおり・入野智久・大場忠道 (2008) 鹿島沖海底コア MD01-2421 の後期更新世テフラ層序. 第四紀研究, 47(6): 391-407.

平田由紀子 (1991) 箱根新期軽石流 (TP 軽石流) にみられる中央火口丘起源の本質物質. 大涌谷自然科学館調査研究報告. (10): 1-10.

笠間友博 (2009) 箱根東京テフラの噴火と火砕流. 相模原市史調査報告書. (4): 15-31.

解説 箱根芦之湯の沢の中で採取した、カルデラ内に堆積した箱根東京テフラ [Hk-TP] (東京軽石) の火口近傍堆積物の剥ぎ取り標本である。Hk-TP は粗粒であるが薄い。上位の火砕サージ相を示す軽石流堆積物による侵食の影響も考えられるが、噴煙柱に覆われる火口近傍では火砕物があまり降下しないことが知られている。ただし、弾道状に放出された大型岩塊はボムサグ構造をつくって堆積物中に定着している。火砕サージ相を示す軽石流堆積物には、逆級化構造がいくつか見られる (スケッチでは粗粒化方

向に矢印を向けている)。この上位には降下軽石と考えられる堆積物を挟んでスコリア流堆積物、石質火砕流堆積物が堆積している。

記録者 笠間友博



図 1a-7-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭。

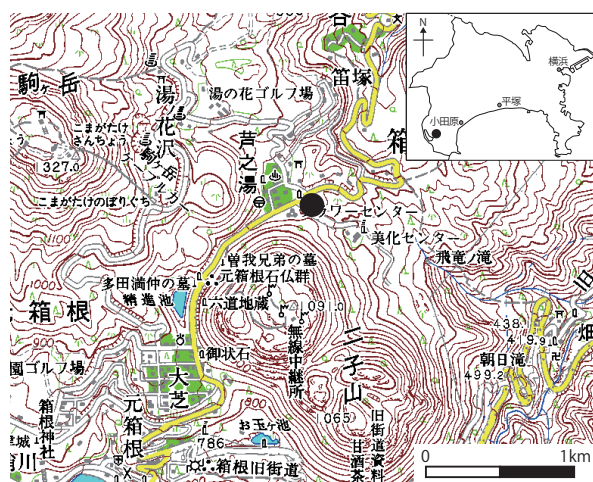


図 1a-7-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。

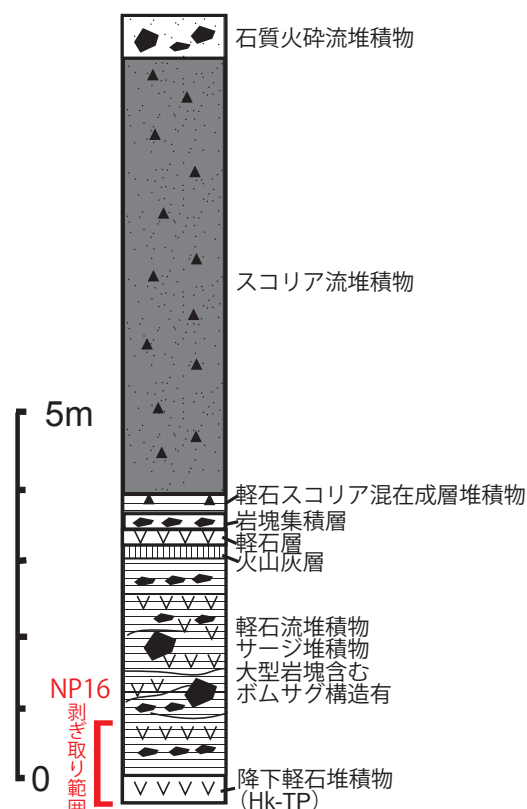


図 1a-7-3. 剥ぎ取り標本の層準周辺の柱状図 (笠間, 2009)。



図 1a-7-4. 剥ぎ取り標本の採集の様子.



図 1a-7-5. 剥ぎ取り標本の展示の様子 (2011 年度企画展「箱根ジオパークをめざして—箱根・小田原・湯河原・真鶴の再発見—」).

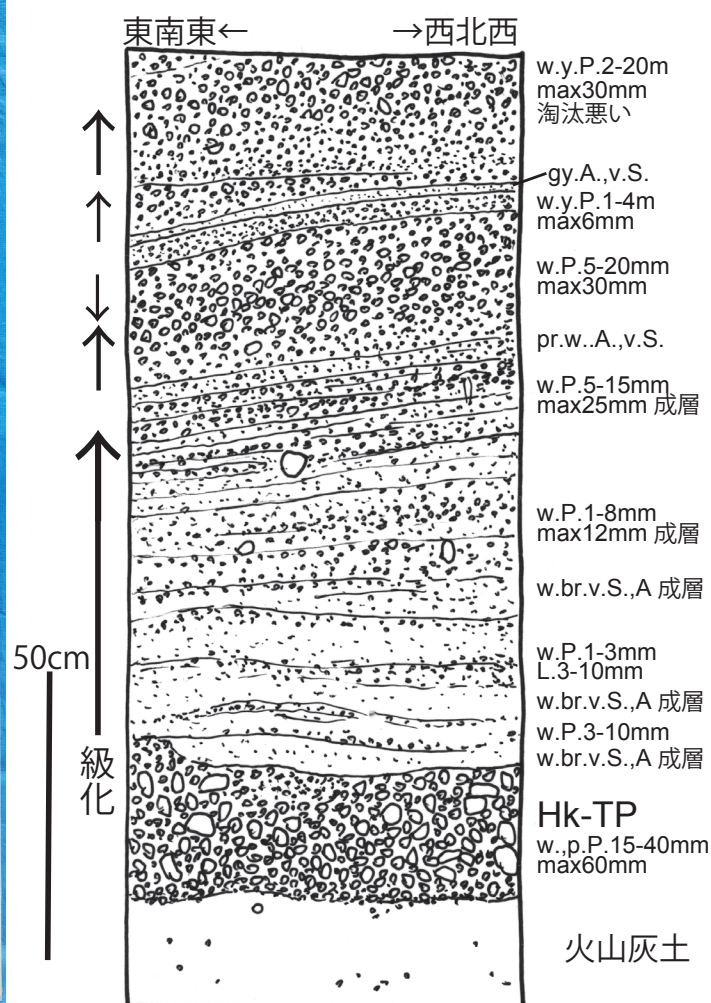


図 1a-7-6. 剥ぎ取り標本の写真 (左) とスケッチ (右, 笠間原図).